

# 地域における読書活動推進のための 体制整備に関する調査研究


## アンケート調査結果概要

---

平成28年3月

株式会社浜銀総合研究所

※平成27年度文部科学省委託調査



# 1. 調査目的・調査種類・調査事項

## 【調査目的】

小学生、中学生、高校生の読書の実態や不読の背景・理由等を把握するための調査を実施し、課題を明確にするとともに、不読解消のための方策等について検討を行う。

## 【調査種類・調査事項】

対象分類	調査票名称	主な内容・調査事項
児童・生徒	小学生対象調査	○読書が好きか ○1日あたりの読書時間、1か月に読んだ本の冊数 ○本を読まなかった理由、本を読むことについて影響を受けたと思うこと ○一番感動したり、興味を持ったりした本について読んだ時期や影響を受けたと思うこと ○学校図書館（図書室）、地域の図書館の利用頻度、認識 ○どのようにすればもっと本を読みたくなると思うか
	中学生対象調査	
	高校生対象調査	
保護者	保護者対象調査	○子供の読書量・頻度についての認識 ○家庭での読書活動の状況 ○保護者自身の読書時間、地域の図書館の利用頻度 ○家庭の蔵書数 ○子供の読書に関する課題認識、意識的に行っていること ○環境面で課題があると思うこと、よいと思っていること ○どのようにすれば子供がもっと本を読みたくなると思うか

## 2. 調査対象

本調査研究では、全国学力・学習状況調査で、読書に関する児童・生徒質問紙の項目について否定的な回答の減少傾向が見られる4都道府県（秋田県・愛知県・高知県・大分県）をまず選定し、さらに、選定された各都道府県において、読書活動に関する取組を推進している3市区町村（計12市区町村）を対象に、各種の調査を実施した。

対象分類	調査票名称	調査対象、配布数	配布状況	回収状況
児童・生徒	小学生対象調査	各市町村内の公立小学校1校の5年生全クラスの児童	12校 840部	524件
	中学生対象調査	各市町村内の公立中学校1校の2年生1クラスの生徒	12校12クラス 540部	327件
	高校生対象調査	各県下の公立高校3校の2年生1クラスの生徒	12校12クラス 540部	457件
保護者	保護者対象調査	上記小学校・中学校・高校生の児童・生徒の保護者	1,920部	1,038件

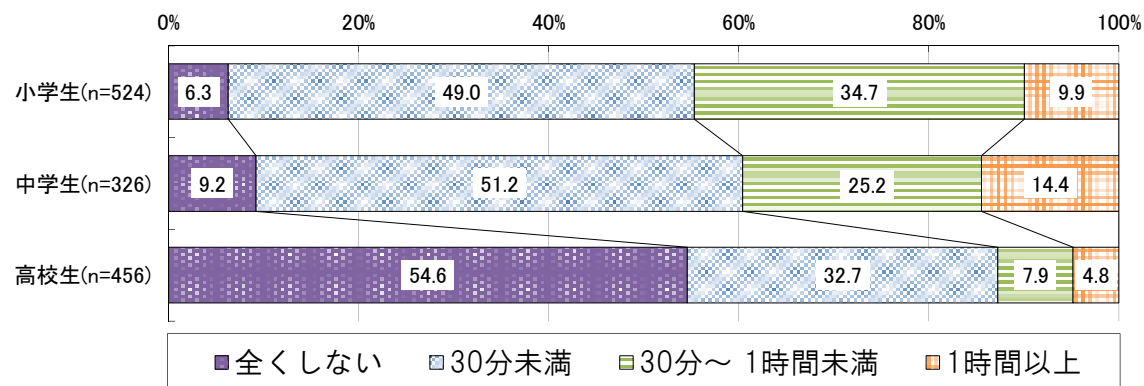
### 3. 子供の読書習慣等の実態

#### Q1. 小学生・中学生・高校生は普段どれくらいの時間本を読んでいる？

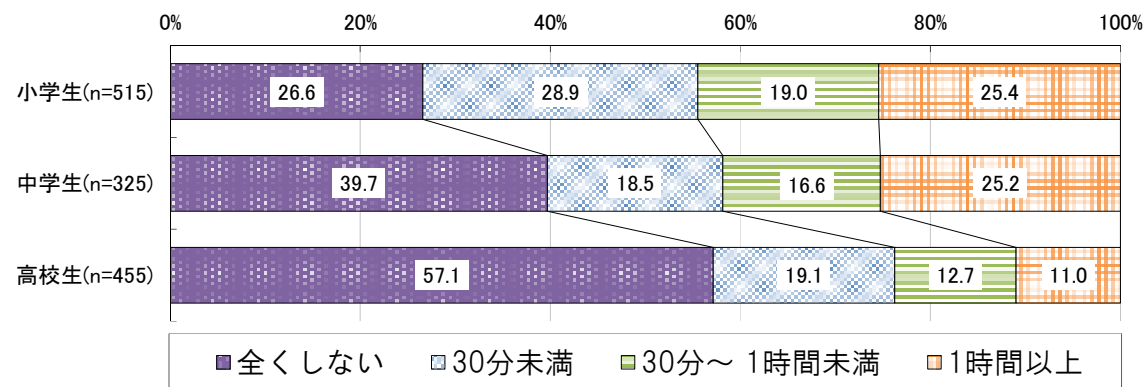
A. 小学生・中学生では、平日に読書を全くしない人の割合は1割未満と低いが、休日についてその割合は小学生で3割弱、中学生では約4割となっている。

A. 高校生については、平日・休日ともに、半数以上は本を全く読んでいない状況にある。

1日あたりの読書時間  
(ふだん学校のある日)



1日あたりの読書時間  
(学校のない休みの日)

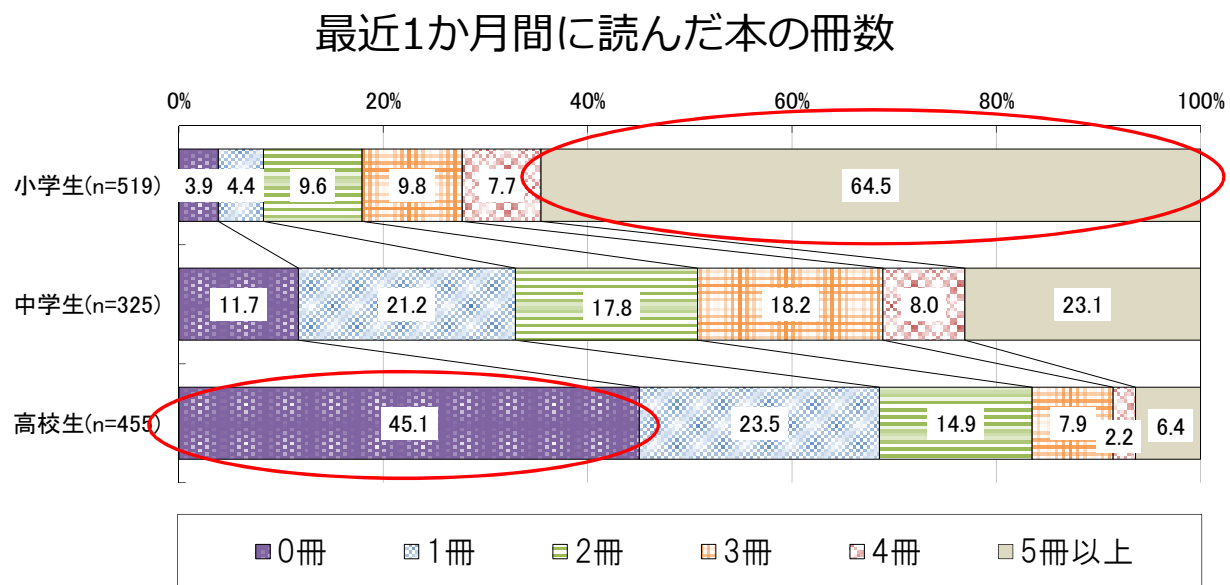


※それぞれ、「無回答」は除いて集計した。

※「1時間以上」の回答は「1時間～2時間未満」「2時間～3時間未満」「3時間～4時間未満」「4時間以上」の選択肢による回答を再分類して集計した。

## Q2. 1か月に読む本の冊数が「0冊」の児童・生徒の割合（不読率）は？

- A. 小学生では月に5冊以上本を読んでいる児童が6割を超え、「0冊」の児童は1割未満と少ない。
- A. 他方で、高校生の約半数は、1か月間に1冊も本を読んでいない状況にある。

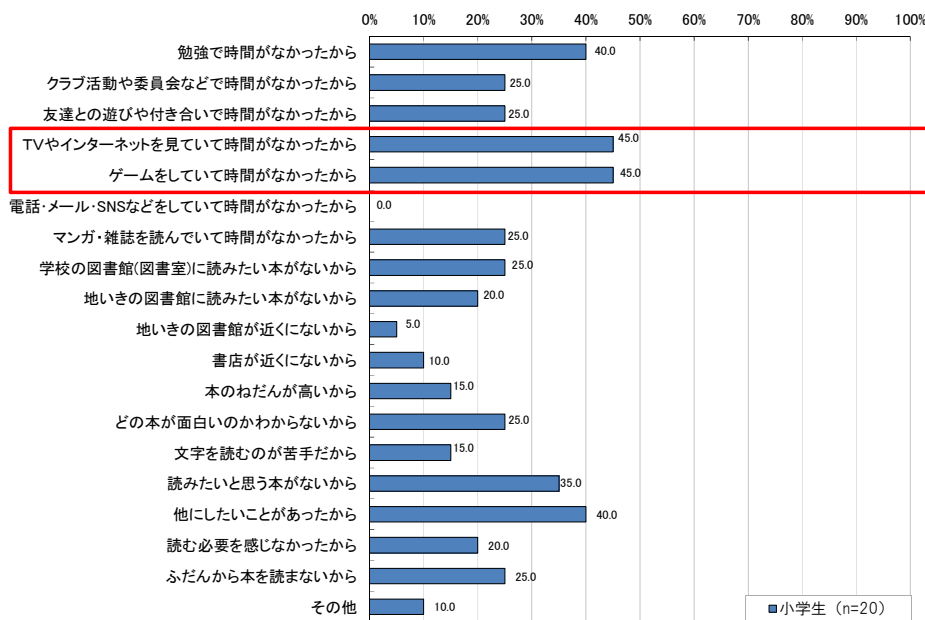


※それぞれ、「無回答」は除いて集計した。  
※「5冊以上」については数字での回答を再分類して集計した。

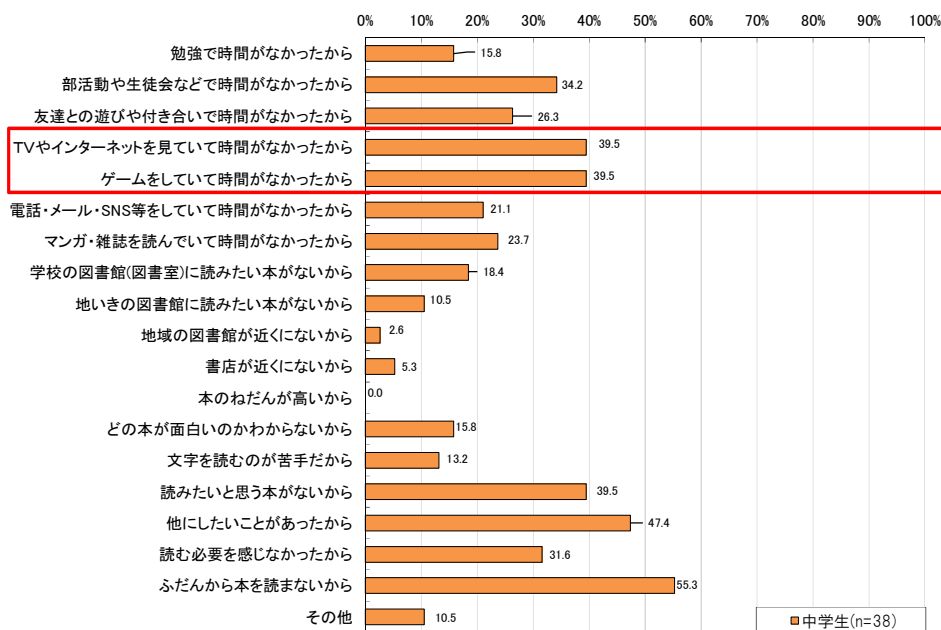
### Q3. 本を読まない児童・生徒は、それぞれなぜ本を読まないのだろうか？

- A. 本を読まない理由として、小学生や中学生では「TVやインターネット」「ゲーム」など、読書以外の娯楽・趣味等に時間がかけている者の割合が相対的に高い。
- A. 中学生や高校生では、読書習慣が身につけていないために本を読まなくなっている者が多いのではないかと考えられる。

1か月に本を1冊も読まなかった生徒が本を読まなかった理由（小学生、複数回答）



1か月に本を1冊も読まなかった生徒が本を読まなかった理由（中学生、複数回答）

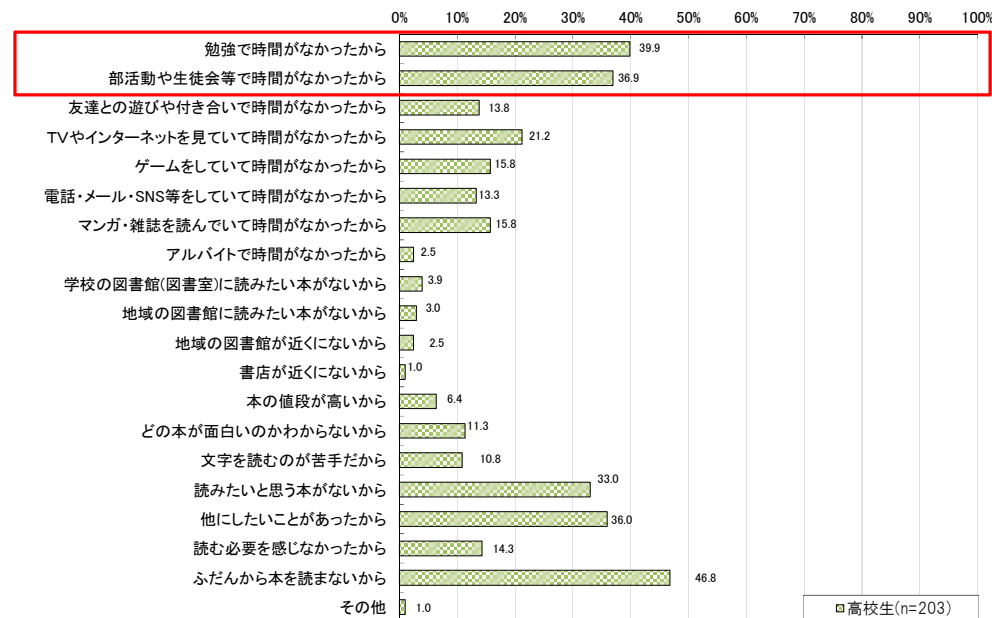


※それぞれ、「無回答」は除いて集計した。なお、集計対象件数が少ない点には留意が必要である。

### Q3. 本を読まない児童・生徒は、それぞれなぜ本を読まないのだろうか？

A. 本を読まない理由として、高校生では、勉強や部活動・生徒会活動等に時間をとられていることを不読の理由として挙げている者も多い。

1か月に本を1冊も読まなかった生徒が本を読まなかった理由（高校生、複数回答）

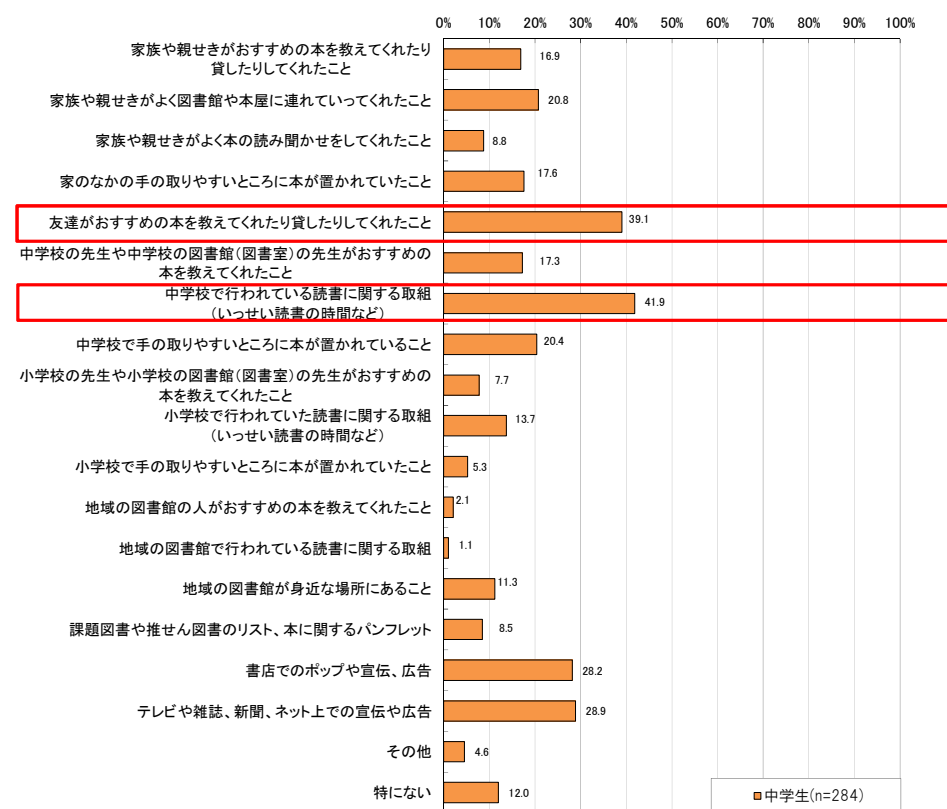
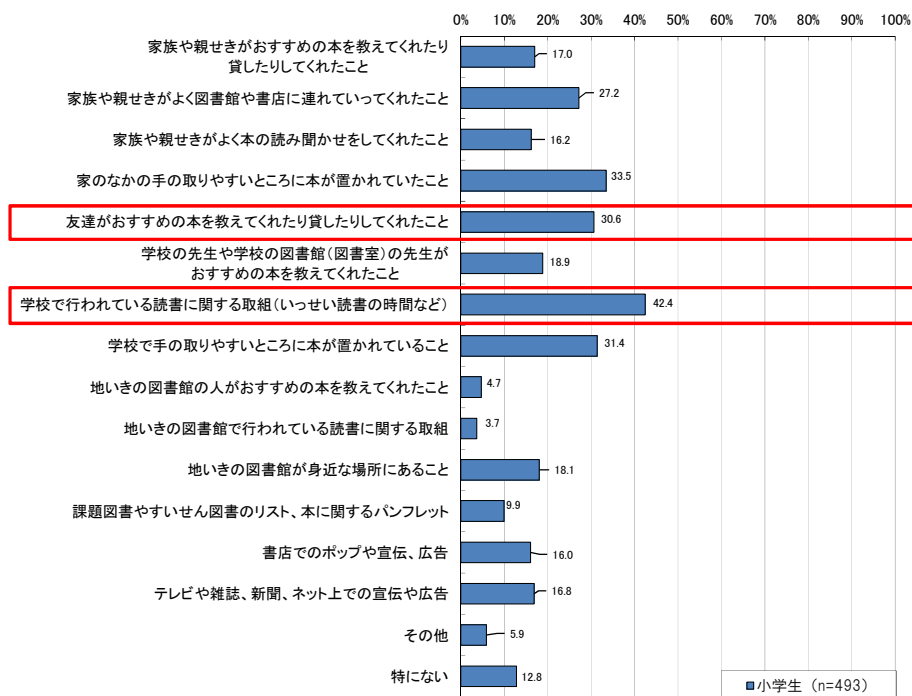


※それぞれ、「無回答」は除いて集計した。

## Q4. 1か月に1冊以上本を読んでいる児童・生徒は、どのような出来事等に影響を受けて本を読んでいるのだろうか？

A. 本を読むことについて、小学生・中学生では、一斉読書の時間など、学校で実施されている取組の影響を受けている者が多くなっている。

### 本を読むことについてこれまで影響を受けたと思うこと (小学生、複数回答) (中学生、複数回答)



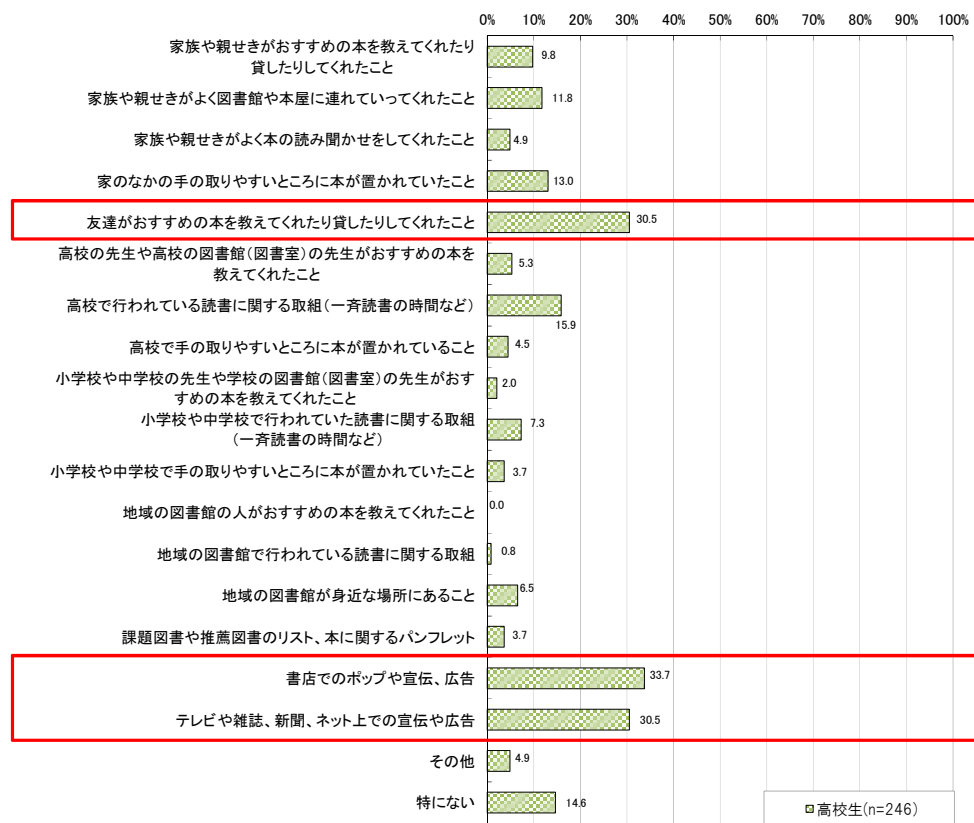
※それぞれ、「無回答」は除いて集計した。



## Q4. 1か月に1冊以上本を読んでいる児童・生徒は、どのような出来事等に影響を受けて本を読んでいるのだろうか？

- A. 高校生で月に1冊以上本を読んでいる者は、学校外場で、書店やメディアを通じて得られる情報に影響を受けている者が比較的多い。
- A. このほか、小学生・中学生・高校生のそれぞれについて、友達からの影響を受ける者が相対的に多いことも見て取れる。

本を読むことについて  
これまで影響を受けたと  
思うこと  
(高校生、複数回答)

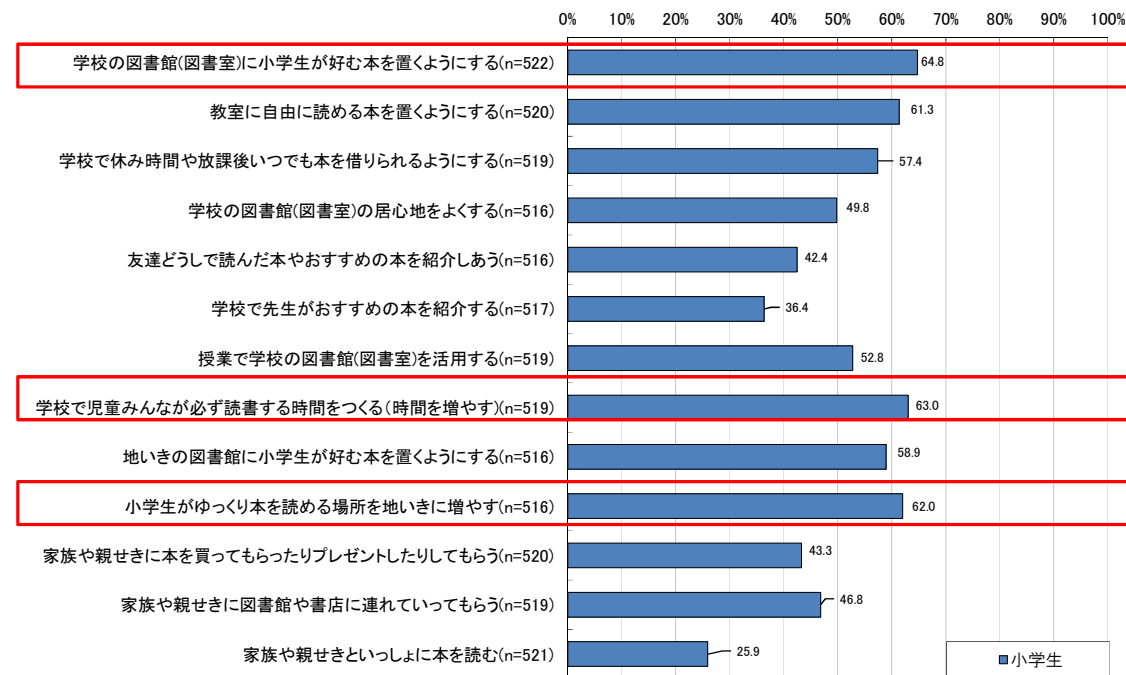


※それぞれ、「無回答」は除いて集計した。

## Q5. どのようにすればもっと本を読みたくなると思うのだろうか？

- A. 小学生・中学生・高校生ともに、「学校の図書館（図書室）に好む本を置くようにする」「学校でみんなが必ず読書する時間をつくる（時間を増やす）」について、相対的に回答割合が高くなっている。
- A. なお、小学生について「小学生がゆっくり本を読める場所を地いきを増やす」、高校生について「学校の図書館(図書室)の居心地をよくする」など、それぞれ、本を読む場所・環境の整備を行うことについても相対的に回答割合が高くなっていることが見て取れる。

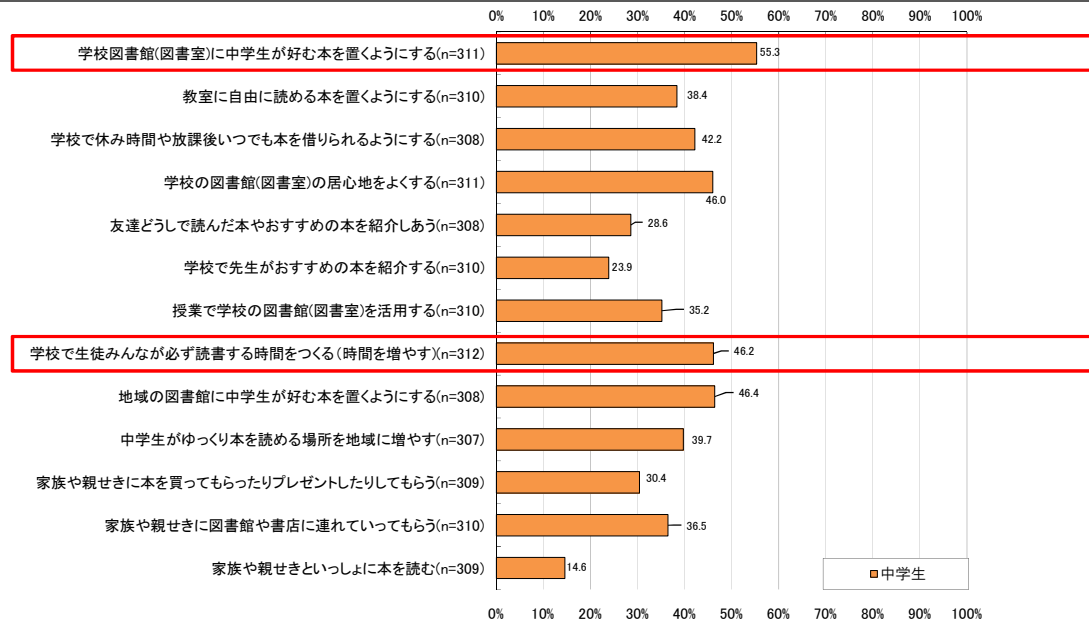
どのようにすればもっと本を読みたくなると思うか（小学生）



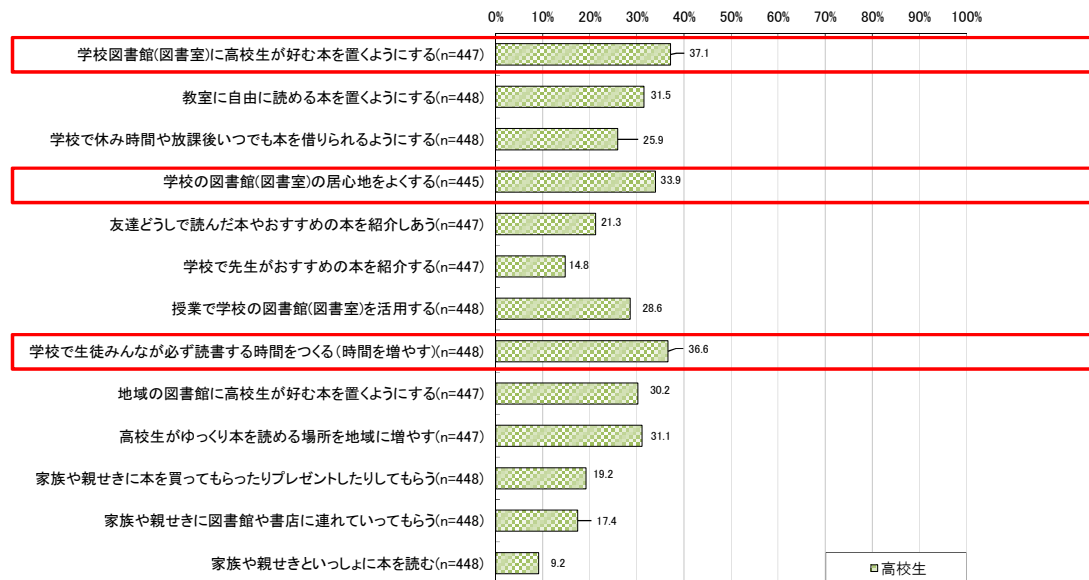
※それぞれ、「無回答」を除いた集計値について、「とてもそう思う」の割合。

# Q5. どのようにすればもっと本を読みたくなると思うのだろうか？

どのようにすればもっと本を読みたくなると思うか（中学生）



どのようにすればもっと本を読みたくなると思うか（高校生）



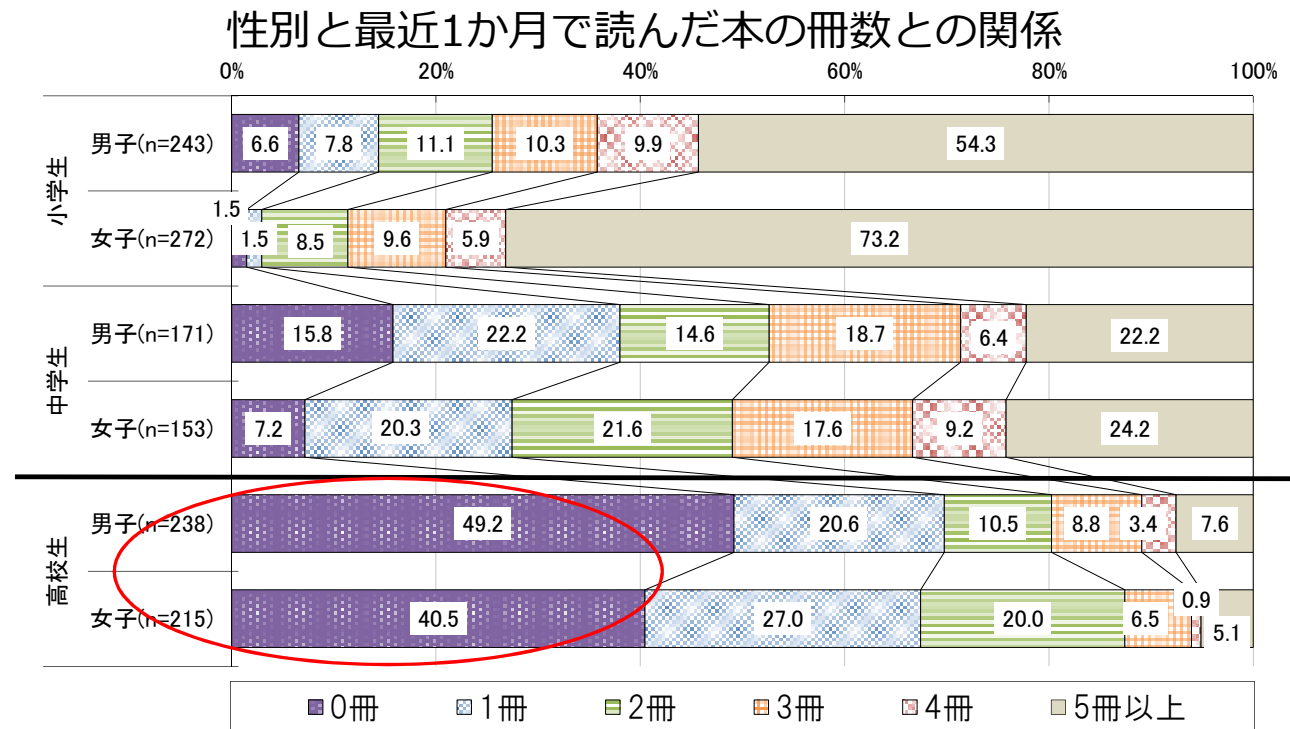
※それぞれ、「無回答」を除いた集計値について、「とてもそう思う」の割合。

## 4. 子供の読書習慣に関する分析

### ◆個人属性（性別）との関係

#### <ポイント>

- 小学生・中学生・高校生ともに、男子よりも女子のほうが読書好きな者の割合は高く、不読率は低いなど、読書習慣が身につけている者が多いことがうかがえる。
- 高校生段階では、本を月に3冊以上読んでいる者の割合は女子より男子の方が高く、男子のなかでより個人差が大きいのではないかと考えられる。



※それぞれ、「無回答」は除いて集計した。

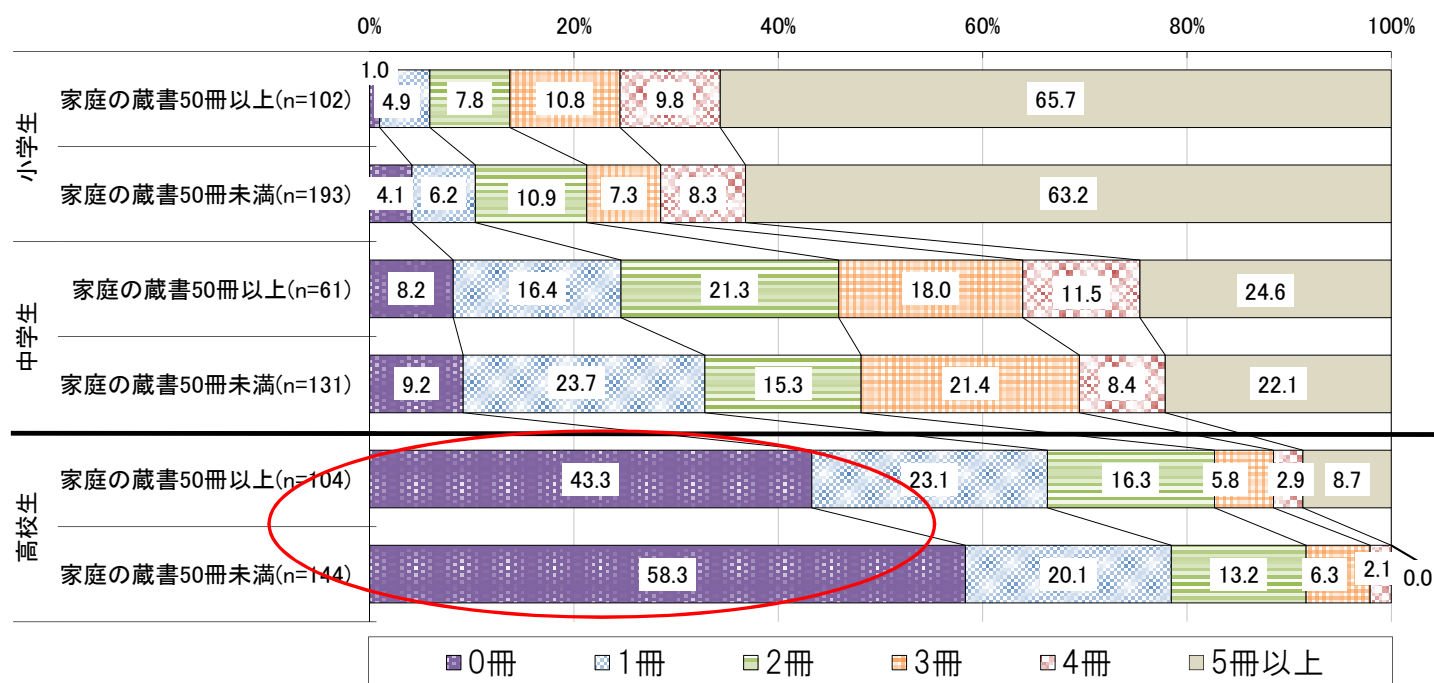
## 4. 子供の読書習慣に関する分析

### ◆家にある本の冊数との関係（家庭環境要因）

#### <ポイント>

- 家庭の蔵書数の違いは、児童・生徒の読書習慣等について、様々な点との関連性があるように見受けられる。
- 家庭の蔵書数別の不読率の差は小学生・中学生では小さいが、高校生ではその差が約15ポイントとなっている。

家にある本の冊数と最近1か月で読んだ本の冊数との関係



※※保護者から回答を得た家庭の蔵書数について、「50冊未満」と「50冊以上」に分類し、子供の読書習慣等との関係性について分析した(蔵書数について「わからない」「無回答」は除いて分類した)。

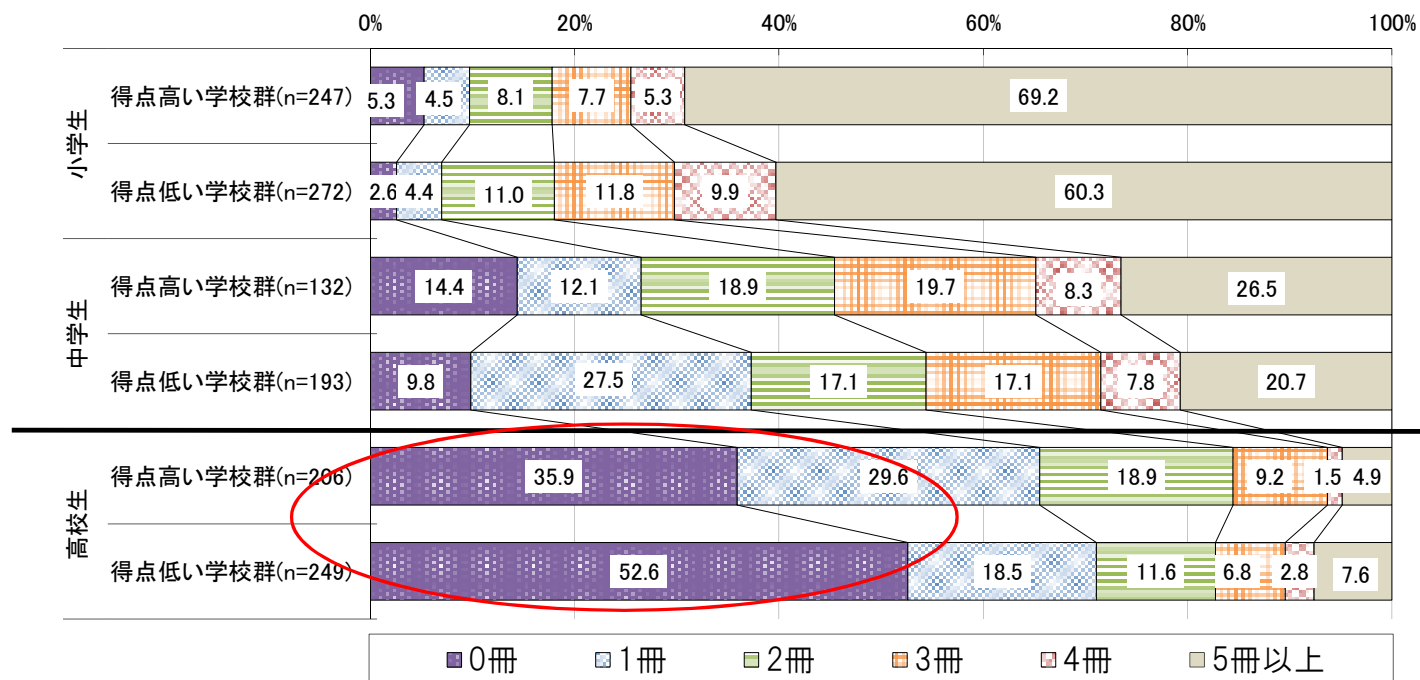
## 4. 子供の読書習慣に関する分析

### ◆充実した学校図書館（図書室）であるかとの関係（学校・図書館環境要因）

#### <ポイント>

- 学校図書館（図書室）が充実していることは、小学生や中学生に関しては不読率という点ではなく、読書の量（冊数）と関連している可能性がある。
- 高校生に関しては、不読率について15ポイント以上の差が見られる。

充実した学校図書館（図書室）であるかとの関係と最近1か月で読んだ本の冊数との関係



※児童・生徒の認識として、学校図書館（図書室）について「使いやすい」、または、「読みたい本がある」と回答された度合いが相対的に高い学校群と、相対的に低い学校群とで分類した。それぞれ、「とてもあてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点とし、小学校・中学校・高等学校のそれぞれ、平均点が相対的に高い学校6校と、低い学校6校とに分類した。なお、小学校・中学校・高等学校ともに、結果として、「使いやすい」の得点が高い学校群と、「読みたい本がある」の得点が高い学校群は、同一であった。

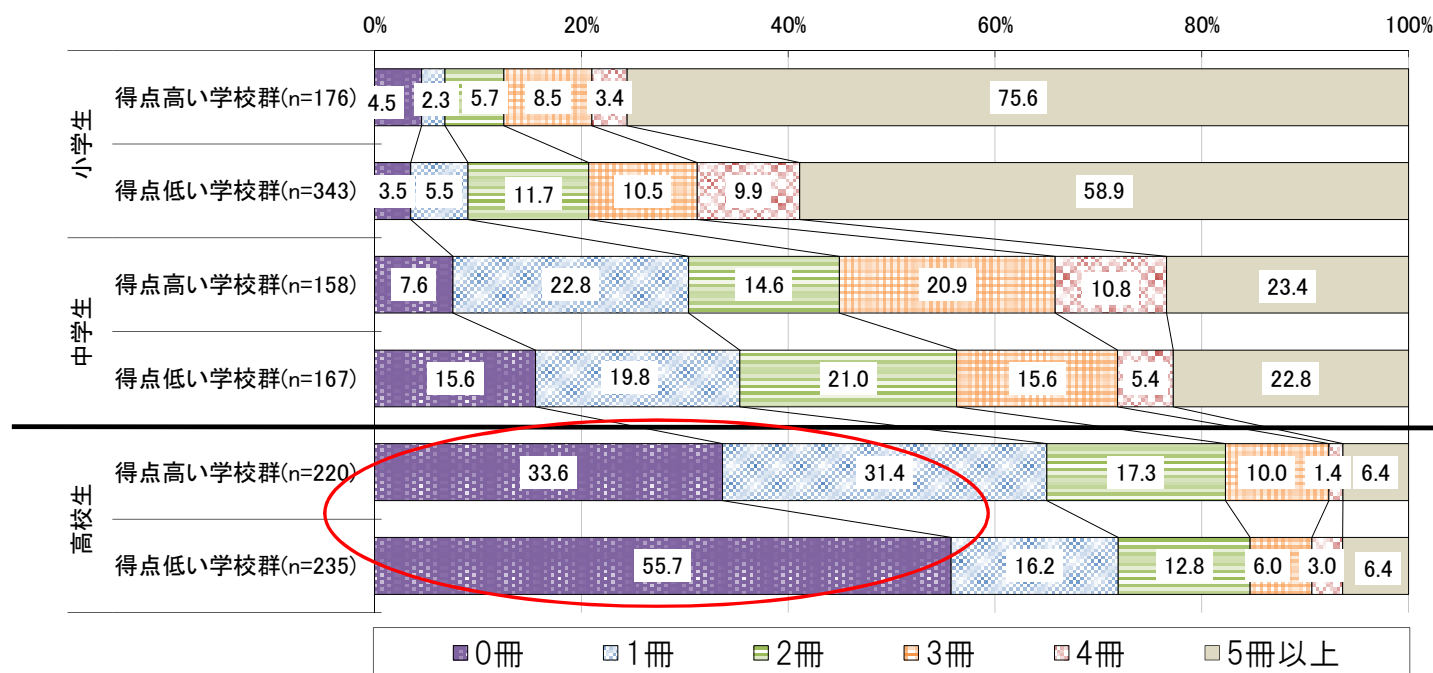
## 4. 子供の読書習慣に関する分析

### ◆一斉読書の時間など読書に関する活動状況との関係（学校・図書館環境要因）

#### <ポイント>

- 読書に関する活動に力が入られている学校では、その成果として児童・生徒の読書冊数が多く、また、不読率が低いという関連性が見られる可能性がある。
- 高校生に関しては、不読率について20ポイント以上の差が見られる。

一斉読書の時間など、読書に関する活動状況と最近1か月で読んだ本の冊数との関係



※児童・生徒の認識として、学校が一斉読書の時間など、読書に関する活動に力を入れていると思うかについて、肯定的な回答の得点が相対的に高い学校群と、低い学校群とで分類した。「とてもあてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点とし、小学校・中学校・高等学校のそれぞれ、平均点が相対的に高い学校6校と、低い学校6校とに分類した。